

一般質問

佐藤 久哉 議員

- 森林バイオマス熱電利用構想と未利用材の有効活用について
- 軽度者向け介護保険サービスの一部移行と地域包括ケアシステムの確立について



議員

森林バイオマス熱電利用を
どう推進するか

町長

林地未利用材の確保から進めたい

佐藤議員

津別町の森林バイオマス熱電利用構想推進のなかで、熱源の確保が困難になり事業が停滞しつつありますが、町が自前でボイラーを整備することによって事業の推進を図ってはどうか。

町長

ボイラーを独自で設置するには、どのくらいの能力を持ったものが必要か、どの程度の設備投資になるのか、どの程度の収入が見込めるか、メンテナンスにどれぐらいかかるのかといったことを見極めたい。この方法で大丈夫だということが出てくれば、踏み切ることもあるのかなと考えています。

佐藤議員

熱源の安定確保のためには、林地未利用材の有効活用が必要条件とされているが、今後どのように事業を進めて

いくのか。また、予想される設備投資はどのようなものですか。

町長

林地未利用材は、通常より運搬コストがかかることが大きな課題となつてい



ますが、津別町森林バイオマス利用推進協議会で林地未利用材の効果的な収集方法について検討しています。今年度は「低炭素・循環・自然共生」地方創生プラン策定事業を活用し、東京の「株式会社森のエネルギー研究所」から専門家を招いた検討会の開催や、「木質バイオマス資源活用事業」を活用した林地未利用材運搬用コンテナによる実証実験を行うなど収集方法の検討を進め、安定供給の体制づくりを目指しています。

議員

軽度者向けサービスの
一部移行をどう進めるか

町長

協議体を設置し
検討していく

佐藤議員

医療・介護総合確保促進法の成立を受け、津別町は平成29年4月から介護サービスのうち訪問介護と通所介護事業サービスを町に移行させることになっていきます。

町長

津別町には国の意図するコスト削減や地域の特性を活かした事業を委託するNPOや団体などもないと思います。生活支援整備事業と総合事業への移行を検討する組織の設置等をどのように進めて行くのかお聞きしたい。

町長

民間企業などによるサービス提供体制の構築が必要となるので、生活支援体制整備事業とセットで進めなければ、多様なサービスは生まれないと考えます。このため、生活支援コーディネーターの配置と協議体の設置を来年4月に行うよう今年度から準備を開始しました。

佐藤議員

津別町では介護認定者が6月現在で436人、そのうち要支援1と2の移行対象になる方が133人います。これだけの人を訪問介護、通所介護等で担い手となる団体に移行させるわけですが、今の段階で何か当てがあるのかお聞きしたい。

町長

これは住民の総力戦でやらなければ、成し得ないと思つています。想定される団体に準備会が集まっていたら、協議をしていくことになりま

佐藤議員

地域サロン事業や新たに創設する「いきいきポイント事業」を活用することは考えられないでしょうか。

町長

地域サロン事業や新たに導入するポイント事業は担い手の発掘に一役買ってもらえる可能性があるので、私もそこに期待しています。

一般質問

篠原 眞稚子 議員

- 子どもの貧困問題について
- フードデザート（食の砂漠）問題について



議員

子どもの貧困をどのように認識しているか

教育長

憂慮すべき事態と認識し
対策を講じている

篠原議員

子どもの貧困対策の推進に関する法律が施行され、生まれ育った環境によって子どもの将来が左右されることになり、健やかに育成され教育の機会均等を図るために、国と地方公共団体が連携をとり対策を進めていくとされています。町は実態をどのように認識しているのか伺います。

教育長

子どもの貧困問題は、大変憂慮すべき事態であると認識した上で、対策を講じています。今年8月に立ち上げた「総合教育会議」は、町長と教育委員会が構成員になっており、連携しながら事業を進めていきます。具体的には、北海道の計画を待って考えていきたいと思っています。

篠原議員

就学援助は必要とする児童

認識しているか

生徒に十分な内容か。

教育長

就学援助制度は、学校を通してお知らせしていますので、保護者は認識していると思います。

法律施行後は、生活保護法

による保護基準の改正に伴う見直しをはじめ、消費税が8%に上がった際には、就学援助費の増額見直しを行うなど対応しています。

篠原議員

貧困問題についての理解を深めることが大切だと思いますが、どう考えますか。

教育長

貧困は、教育だけで解決できる問題ではないので、関係部署・機関が連携して取り組んでいくことが大事だと思っています。

議員

フードデザート（食の砂漠）をどう考えるか

町長

現時点で差し迫った問題でない

篠原議員

フードデザート（食の砂漠）は、生鮮食料品の入手が困難になることで、高齢化社会を象徴する問題であると言われています。5年後、10年後のことを考えると対策が必要だと思います、この問題に対する認識と、今後の取り組みについて伺います。

町長

生鮮食料品供給体制の崩壊については、商店街の空洞化などによる買い物の利便性の低下、貧困や差別、社会からの孤立という要因があります。これが進むと津別町においても社会的弱者の栄養事情が悪化し、疾患発生率が増加して高齢者の要介護度の上昇にもつながることが懸念されます。しかし、現時点で差し迫った「食の砂漠問題」はないものと考えています。

篠原議員

現状は、移動販売車を利用して、不便を感じていないようですが、アメリカでは、生鮮食品をとることができなくなると、健康上影響を及ぼす人が多く、国家予算を投入しているとされていますが、どう考えますか。

町長

移動販売車が来なくなつた場合どうするかという点もありませんが、もっと深刻なのが、町の中に生鮮食品を扱う店がなくなるかもしれないという、後継者の問題などを含めて考えると、しっかり対応しなければならず、商工会との議論が必要になってくると思います。



一般質問

茂呂竹 裕子 議員

- 「医療・介護総合法」施行の影響と介護報酬切り下げについて
- 自衛隊適格者名簿について



議員

町長

「医療・介護総合法」介護報酬
切り上げの影響について

いずれの事業所も大変
厳しい状況です

茂呂竹議員

医療・介護総合法促進法が4月から実施され、地域医療の拠点となる第2次医療圏の病床推計が出ているが、津別病院のベッド数はどうなるか。

町長

道は7月、2025年に必要な病床数の推計結果を発表し、津別町が含まれる北網圏域では、2千310床、30・5%減となっています。高齢化と人口減から推計し、地域医療圏構想策定の参考にしています。

津別病院も、ベッド数を検討すると言っており、町も協議を行っていききたいと考えます。

茂呂竹議員

介護保険では、1割から2割に負担増、施設入所者の補給外しもあるが、町内の実態はどうか。

町長

所得や資産のある人は、自己負担割合が引き上げられ、補給給付要件は資産の勘案が行われました。これによって8人が2割負担となり、そのうち1人は施設入所者です。補給給付で非該当となった方は6人で、このうち施設入所者は3人です。

茂呂竹議員

補給給付を外されると月4万円負担増となると聞くが、見過ごしてよいのか。

町長

担当に相談していただき、行政と経営者でできることがあれば対応すべきと思います。

茂呂竹議員

要介護1と2が特養に入れなくなったが、認知症等で困っているなど現実に影響はでないか。

町長

特例入所要件に該当すると判定し町が意見を述べたのは5件あり、そのうち1件が施設入所となりました。

茂呂竹議員

4月から事業所に支払われる介護報酬が4・48%引き下げになったが、町内の小規模事業所への影響を把握しているか。

町長

今年の改定では、基本報酬は全て引き下げとなり、いずれの事業所も大変厳しい状況にあると聞いています。

利用者増、加算項目の見直しなど基本報酬減を補う経営努力により、事業の維持が図られることを期待しています。

議員

「自衛隊適格者名簿」は
住民基本台帳法に
規定があるか

町長

他町村と意見交換
してみたい

茂呂竹議員

今年度、自衛隊適格者名簿の依頼はあったか、提出した

補給給付とは低所得者などに対して、施設サービス・短期入所食費・居住費の一定額を介護報酬で補足するもの。

のか。

町長

帯広地方協働本部の依頼文書を受領後、住民基本台帳から抽出し提出しました。

茂呂竹議員

住民基本台帳法に明確な規定がないため、北見市、滝川市、根室市は提供を行わず条例どおり閲覧に切り替えたそうです。国会で集団的自衛権行使容認の法案が通過すれば、自衛隊の任務が非常に危険になることを想定しなければなりません。

町長

集団的自衛権の解釈については、多くの国民が納得するところまで議論を尽くすべきと考えています。

名簿については、住民基本台帳法による閲覧方式で対応する市町村もあると聞くので、他町村長と意見交換したいと考えています。

一般質問

村田 政義 議員

○ 町道・林道の整備について



議員

町長

大型機械の安全走行に支障をきたす町道・林道の整備をすべきと思うが

情報収集をした中で対応したい

村田議員

農業機械の大型化に伴って現行の町道・林道の幅員では車両が安全に運行できない状況が生じています。

安全に走行できる道路幅の拡張が必要と思うが、考えを聞きたい。

町長

現在、町が管理している路線については、毎年草刈りや雨や融雪などで補修が必要な箇所は、通行に支障がでないように維持管理に努めているところ、拡幅となると補助制度がなく相当なお金が必要となります。

今後の財政状況と補助制度の変更などを鑑みながらの課題とさせていただきます。

現実的には拡幅は困難ですが、危険箇所については、維持管理面からも町の機動力を活用し、事故の起こらないよう情報収集をし、できる範囲の中で対応していきたい。

村田議員

町道・林道沿線に覆いかぶさる立木が大型機械の運行の妨げとなっており、枝払いだけでなく沿線周辺を2〜3メートルの幅で立木伐採をすべきと思うが。

町長

支障となる町道・林道沿線の侵入木の処理や枝払いについては、建設課機動・人材活用センターを活用し、できる範囲で実施しています。

立木伐採は、道の維持管理の上でも効果があると認識していますが、沿線を2〜3メートルの幅で伐採しようとする伐採対象木によっては、高額の事業費がかかります。

このため、通行に支障がある箇所については情報収集し、立木の伐採処理を含め、できる範囲で整備に努めていきたい。



筑波大生との意見交換会を開催

8月24日

津別町議会は、町政や議会に対する町民からの声を聞く場を設けながら、身近で開かれた議会となるよう取り組んでいるところです。

今回は、まちなか再生事業として筑波大生が滞在している期間中に意見交換会を開催し、町の現状とワカモノ・ソトモノ目線で見た町の印象や、課題点などについてさまざまな意見が出され、活発な意見交換会となりました。

良い点

- ・町民があたりかたかく親切で、気楽に声をかけてくれる。
- ・緑が多く、町はきれい。

改善点

- ・古い建物をどのようにしていくのか。
- ・施設はあるが、人がいなく寂しい印象。
- ・買いたたけ物が多い。
- ・観光の基点となるものがない。
- ・賃貸の住宅が少なく、住みたくても住めない。
- ・自然、雲海、相生の文化は良いが、市街地の町並みあまり良くない。

提案

- ・若い人が見るサイトに津別峠、雲海、チミケツブ湖などを載せてPRしていく。
- ・ターゲットを定めて、発信していく方がよい。方向性を決める。
- ・道東観光人と触れ合っただけで泊まれるレストハウス的なものがないか。

※一部を掲載